

磐城之實業

發行所 磐城之實業社
 定額 一年分 五圓
 半年分 三圓
 三個月分 二圓
 印刷所 大和田印刷所

平町長伏見彦衛君に進言し

町議諸公に内省を望む

須らく正論に聽從するの雅量を要求す

磐城之實業社長 大和田與平

平町長伏見彦衛君、僕は君をして過去幾年間の町政執行上に於て決して名町長なりと敬畏するものに非ざることを茲に聊か批判者とし新聞記者とし將た又、町民の一員として勇敢に自己の意志を表するも、今後眞摯に町民の要望に副ふべき政務的眞正の手腕を見せる時は改めて前言を取消すに躊躇する者ではない。

定見なしと云はれて憤慨する

君は曾て吉田寅之輔議員に會議の席上、定見なしの町長との一言を痛撃されて憤慨色をなしたと云ふ事は今尙議員間の話柄に時折上ることがあると云ふ噂、然らば伏見君、君は町政運用上に經りん抱負を藏し町政執行の責任理事者として問題の發生毎に町民の目の前に於て醜態を續けてゐることは情

スピード的でも
 嶄新な印刷
大和田印刷所
 平南町電四六

實と因縁とのみによつて其の局に當つて居るが故に遺憾ながら事務の滞滞と綱紀の弛廢其の極に達し居るには非らざるか、嗚呼町民の齋しく憂慮して居ることは何を物語るものか、町長伏見君是等は一一事實の指示をするに非らざれば發見し得ざる程、君の腦裡に障礙は無かるべく三萬町民の親分として達識にして頭腦明せきであらねばならぬ町長なればなり。

現下の問題は 助役の推薦にあり

前議員に依つて現町長を選出したるもので現議全員の責任なしと辯ずれば其迄なれども大平町建設の理想を實現すべき途上にある町政の執行機關たる役場内が甚だ忌はしき情實を放送しつゝ、ある今日、町長はその大責任を痛感し自己の短所を反省し **人格、聲望、閣**

歴よりは治の事實と町情に通じ居る若手に非らざるも若手以上の勇氣と努力とを有し事務の精英として此の麻の如く亂れ居る平町役場をして飽迄理性に立つて感情に走らず事を決するに**嚴正至公、寸毫も情實を許さず、整備の人にして練達老熟の手腕に加へて機敏精神にして膽略に富むの士を**要望するものであつて之れ町長伏見君の性格に相反するかも知れざれども君が眞に愛町の發露あらば是等の者を進んで推薦すべきが已れの短所を自覺して町への御奉公なりとす。

議員の町民に對す 忠實なる措置

事務を見るに涼しき態度あり出張し勝の町長として廳内の事務統制と處理に前記の如き輔翼あつてこそ自治機關の運用は滞滞なし町民の期待は又斯くあるべき筈である。議員諸君の一部の如き單に若きを望むのみが眞の理想にも非らざるべし伏見君が如何なる抱負を持して此の助役人選を遠きに求るか或は畑違への人物を物色するか是等は彼の良心をして町民本位を離れざる自己打算の仕打云はざるを得ない、全く私心に囚はれて町政の滞の現在と將來と及び町民の社福等を顧

念せざるものことばざるべからず、此處に於て議員は助役の推薦權なしと雖も之が承認權を有するを以て右様の人物を町長に非公式に進言し之を推薦せしめて直ちに承認を與ふべきである。

議員諸君の紳士 的態度は交讓心

若し夫れ助役の椅子を空ふること永引かせるに於ては町會は紛擾と醜陋とを遺憾なく社會に暴露し各派各人は益々相警策と睨み合ひなり將來に禍根を胎すこと、なる、斯くては之れ町長の責任なりとするも一つは町議諸公が町民に對して不忠實と云はざるを得ない、町長及議員各派は兎角に自身に附會した理由を説きたがるも、是を大處、高處より觀且つ嚴正公平なる條理に照らすの時は此の問題の解決は極めて簡單明瞭であらねばならぬ筈である即ちお互が**交讓妥協の精神**がありさすれば此の精神の發露する所如何なる形に於ても解決すべく眞に町民の社福を念とする者の必然發動するものである、之に反する時諸議諸公の人格は疑はれて偏狹にして公職を弄ぶものとして猛烈なる攻撃は是れ自から招く罪である今回の助役問題は極端に悪感情を高潮せしめずして漫りにブルドックの喧嘩扱ひにして勝敗を決せざることを町長伏見君に進言するものである。

町民の希望は斯くの如しである

最後に吾人は云ふ我等の議員として私心なき時は町政に曠廢なく町勢は發展すべきである、是れが町政の町民化で理想の自治政であらねばならぬ。

最後に吾人は云ふ我等の議員として私心なき時は町政に曠廢なく町勢は發展すべきである、是れが町政の町民化で理想の自治政であらねばならぬ。

曾我君の助役説立消に

町民の爲め教育思想上にも幸福 流石に町議諸君の賢明振り

平第一小学校校長曾我君の助役候補一年生の如き無経験結果ともなるべし此處に猛
役推選説を耳にせし時、有者は眞平ご免たらざるを得ざる處ありてか曾我君も
識の町民は人撰の意外なるない然も父兄生徒乃至は君
に寧ろ驚愕したものであるの教育を受けし卒業青年は
自治政の助役としての標 自治体入りし無能呼
識が校長として余命取て 自ら受けるに於ては
長きにも非ざるの理由に おらが校長先生と尊敬しつ
短して賢明なる措置に非ず ありし観念上感服せざるべからず
して之れ情實の片 木村代議士啞然となる

進むべし道は一途

野心有るを知らざるも
中正會を解散して幸未俱樂
部と改稱擴張した關内正
部と改稱擴張した關内正
部と改稱擴張した關内正
部と改稱擴張した關内正

黨情を捨てた關内君

木村代議士啞然となる

野心有るを知らざるも

中正會を解散して幸未俱樂
部と改稱擴張した關内正
部と改稱擴張した關内正
部と改稱擴張した關内正

然して政黨化した私闘

政治の決議の行使をなさ
して各自々行動として

係を結付ける

政治の一大精神より御免
を蒙ると云ふが如き態度に
出たので木村君果敢たりと
の噂が立つたが果して眞ら
りせば關内君天晴れ男を
上げたと云ふもの出るにて
も君は當面の助役問題今後
の町政重大案件に今回新た
に生れた新團體をして敢
然として政黨化した私闘

御大の町長も助役も

輸入は考へもの

新團體と齋藤君

同志會の二人組
男を上げるか下げるかの野崎君

微動

俄然町會の分野に一大衝
動を興へた新團體の幸未俱
樂部に學識深慮ある齋藤君
が公平穩健なる一新會
黨より脱加入したことが不
思議の第一同志會の吉力
田實之輔君が吉村安次郎君
を道伴れに入城、従来より
深い關係を井上君等と結ば
れ居りし國府田直良君の加
らぬ

其四

甲「町理事者であらうが町
會であらうが、あまりに
私する時は町民大會でも
開いて當局を弾劾したら
どうだね、費用は出し
てやるよ」
乙「駄目だよ、元來無自覺
な町民だものそんな氣力
なんかもど、ありやし
ないよ、切端詰らなけれ
ば自覺なんかしやしない
よ、暑くなつて来たから
お蔭で暑くもしてゆつくり町
長は助役の人選を議員の
泉原を見ていることだら
う。」
甲「君も又冷淡なる哉だね
乙「アハハハ」

其三

甲「一體町長が自決主義、
自力主義などの無いのは
先刻話した小黨分立の結
果とも一面に同情はする
が其の政黨派の分野は
どうなつてゐるかね」
乙「ナールド君は新黨語
を發明するね」

其二

甲「小黨多派に別れてゐる
から町長としては全く手
も足らないで三百六十
五日主義をとつて平坦と
して居るんだね」
乙「君は變なことを云ふね
自慢ぢやないが僕の如き

其一

甲「夫れ或は然らんかね」
乙「夫れ或は然らんかね」
甲「夫れ或は然らんかね」
乙「夫れ或は然らんかね」

助役問答

甲「君、助役問題はさうし
たね」
乙「ツム末だ定まらないよ
甲「一體平には人物が無い
と見えるね」
乙「人物が無いんじゃない
有り過ぎて困るんだよ」
甲「だつて君……人物有り
とすればもうとくに定
まつてしまふんじゃない
かね……」
乙「そこだよ君、平は所謂
多士濟々で其處迄かな

社交俱樂部

果し三萬町民の信託者なり
に止むれば公職の大使命を
と云ふべきである。

輸入は反對

御大の町長も助役も
輸入は考へもの

同志會の二人組

男を上げるか下げるかの野崎君

微動

俄然町會の分野に一大衝
動を興へた新團體の幸未俱
樂部に學識深慮ある齋藤君
が公平穩健なる一新會
黨より脱加入したことが不
思議の第一同志會の吉力
田實之輔君が吉村安次郎君
を道伴れに入城、従来より
深い關係を井上君等と結ば
れ居りし國府田直良君の加
らぬ

磐城之實業お筆先

熱心教主 町會議員

天下の先覺者安藤公の御實はなかくに面倒だから城下、平の町、世の中は班此の土地を知らない生娘で尻の混沌の世になつたぞよ。一寸はよいかも知れんが頭が熱くては生きたるもの。義理張りの交際も出来ぬ。始末で途に離れ出れば一方浮氣の亭主は澄顔では無いぞよ。

又世の中は家庭を造るの餅屋は餅屋で植木屋が大工になつたり左官が洋食屋であるぞよ。

平町特別税戸數割

二十圓以上五十圓未満

納税者は幾人なるか (三)

一丁	目	三九	白土貞三	二九	野上龜太郎
二丁	目	二二	中村吉太郎	二五	齊藤喜代志
三丁	目	四一	渡邊喜重	三三	松崎茂安
四丁	目	二四	菅本武雄	二四	森田茂一
五丁	目	二二	大金英夫	三一	田巻酒造之助
六丁	目	二七	吉田彦太郎	三〇	江尻康平
七丁	目	二七	柏原喜代松	三〇	大平徳兵衛
八丁	目	二四	金田ツネ	三〇	皆川新一
九丁	目	三九	伊藤軍二	四七	皆川新一

町自體を自己心身と觀じて

一町民與平迂人

はれた事實の反映を極めて簡単に報ずるのやうな批評をする事は殊に當處に絶對封鎖である。

僕等は古磐治町に居住し週刊磐城之實業を主宰し南町に大和田印刷所を経営して實業的生活を送つて居る。一面文化事業の實業者であり半面文筆労働者でもある。

地方に於て適當の任に當る大新聞の記者は全く事務的で又表面に現正の徒を息の根の止まる迄

熱情のぼたぼたするが儘に町民的忠誠の大弾力として我が磐城之實業は特に數千枚を増刷して平全町に無代進呈す切に一讀を乞ふ

三〇	鈴木 喜藏	三三	山田 勇太郎	三六	武田 元之助
三一	鈴木 貞藏	三四	山田 福太郎	三七	渡邊 秀之助
三二	鈴木 文藏	三五	山田 寅松	三八	高野 三郎助
三三	鈴木 辰藏	三六	山田 源一	三九	阿野 英次郎
三四	鈴木 三藏	三七	山田 千代重	四〇	薄葉 巳之松
三五	鈴木 三藏	三八	山田 左工門	四一	吉野 市三
三六	鈴木 三藏	三九	山田 千代重	四二	薄葉 巳之松
三七	鈴木 三藏	四〇	山田 千代重	四三	吉野 市三
三八	鈴木 三藏	四一	山田 千代重	四四	薄葉 巳之松
三九	鈴木 三藏	四二	山田 千代重	四五	吉野 市三
四〇	鈴木 三藏	四三	山田 千代重	四六	薄葉 巳之松
四一	鈴木 三藏	四四	山田 千代重	四七	吉野 市三
四二	鈴木 三藏	四五	山田 千代重	四八	薄葉 巳之松
四三	鈴木 三藏	四六	山田 千代重	四九	吉野 市三
四四	鈴木 三藏	四七	山田 千代重	五〇	薄葉 巳之松
四五	鈴木 三藏	四八	山田 千代重	五一	吉野 市三
四六	鈴木 三藏	四九	山田 千代重	五二	薄葉 巳之松
四七	鈴木 三藏	五〇	山田 千代重	五三	吉野 市三
四八	鈴木 三藏	五一	山田 千代重	五四	薄葉 巳之松
四九	鈴木 三藏	五二	山田 千代重	五五	吉野 市三
五〇	鈴木 三藏	五三	山田 千代重	五六	薄葉 巳之松
五一	鈴木 三藏	五四	山田 千代重	五七	吉野 市三
五二	鈴木 三藏	五五	山田 千代重	五八	薄葉 巳之松
五三	鈴木 三藏	五六	山田 千代重	五九	吉野 市三
五四	鈴木 三藏	五七	山田 千代重	六〇	薄葉 巳之松
五五	鈴木 三藏	五八	山田 千代重	六一	吉野 市三
五六	鈴木 三藏	五九	山田 千代重	六二	薄葉 巳之松
五七	鈴木 三藏	六〇	山田 千代重	六三	吉野 市三
五八	鈴木 三藏	六一	山田 千代重	六四	薄葉 巳之松
五九	鈴木 三藏	六二	山田 千代重	六五	吉野 市三
六〇	鈴木 三藏	六三	山田 千代重	六六	薄葉 巳之松
六一	鈴木 三藏	六四	山田 千代重	六七	吉野 市三
六二	鈴木 三藏	六五	山田 千代重	六八	薄葉 巳之松
六三	鈴木 三藏	六六	山田 千代重	六九	吉野 市三
六四	鈴木 三藏	六七	山田 千代重	七〇	薄葉 巳之松
六五	鈴木 三藏	六八	山田 千代重	七一	吉野 市三
六六	鈴木 三藏	六九	山田 千代重	七二	薄葉 巳之松
六七	鈴木 三藏	七〇	山田 千代重	七三	吉野 市三
六八	鈴木 三藏	七一	山田 千代重	七四	薄葉 巳之松
六九	鈴木 三藏	七二	山田 千代重	七五	吉野 市三
七〇	鈴木 三藏	七三	山田 千代重	七六	薄葉 巳之松
七一	鈴木 三藏	七四	山田 千代重	七七	吉野 市三
七二	鈴木 三藏	七五	山田 千代重	七八	薄葉 巳之松
七三	鈴木 三藏	七六	山田 千代重	七九	吉野 市三
七四	鈴木 三藏	七七	山田 千代重	八〇	薄葉 巳之松
七五	鈴木 三藏	七八	山田 千代重	八一	吉野 市三
七六	鈴木 三藏	七九	山田 千代重	八二	薄葉 巳之松
七七	鈴木 三藏	八〇	山田 千代重	八三	吉野 市三
七八	鈴木 三藏	八一	山田 千代重	八四	薄葉 巳之松
七九	鈴木 三藏	八二	山田 千代重	八五	吉野 市三
八〇	鈴木 三藏	八三	山田 千代重	八六	薄葉 巳之松
八一	鈴木 三藏	八四	山田 千代重	八七	吉野 市三
八二	鈴木 三藏	八五	山田 千代重	八八	薄葉 巳之松
八三	鈴木 三藏	八六	山田 千代重	八九	吉野 市三
八四	鈴木 三藏	八七	山田 千代重	九〇	薄葉 巳之松
八五	鈴木 三藏	八八	山田 千代重	九一	吉野 市三
八六	鈴木 三藏	八九	山田 千代重	九二	薄葉 巳之松
八七	鈴木 三藏	九〇	山田 千代重	九三	吉野 市三
八八	鈴木 三藏	九一	山田 千代重	九四	薄葉 巳之松
八九	鈴木 三藏	九二	山田 千代重	九五	吉野 市三
九〇	鈴木 三藏	九三	山田 千代重	九六	薄葉 巳之松
九一	鈴木 三藏	九四	山田 千代重	九七	吉野 市三
九二	鈴木 三藏	九五	山田 千代重	九八	薄葉 巳之松
九三	鈴木 三藏	九六	山田 千代重	九九	吉野 市三
九四	鈴木 三藏	九七	山田 千代重	一〇〇	薄葉 巳之松

筆跡し得るでなければ所謂アリストロトルの稱ふる筆の威力は發揮し得ないのである。此の意味に於て縣下唯一の週刊新聞と誇り努力しつゝ經營して居るのである。

僕等は常に居住地たる平町自體を自己の心の如く感じ、その心なれたる五管の療治保健に自愛と責任とを痛感して居るものである。其處で自治を町民の手に歸せしめ、近時中央政界に於ける軋抗の余弊が著しく地方自治にも浸潤し來つて現

一、自治生活の根源たる町會を銷滅せる情弊より離脱せしめて家族生活の延長であり營業生活の集約にも比すべき我等の町の自治政治は何處までも圓滿調和を旨とする事

二、町の隆盛繁榮の助長を善導には衆智を聚めて其の圓滑なる發展を期し町民生活の安定と生産能率の増大に資すること

三、財政税制の改革を圖り町の自主的財政の基礎を確立すこと共に諸税負擔の公平緩和を期する事

四、町民保健衛生の根幹たる水道の完全を期し、たる以上は財政の許す限り下水計畫を促進すべきである。

毎週日曜日發行の磐城之實業は何卒御覽下さり、週刊新聞は日刊と雖もその中間に在つて評論と興味中心主義であります。

果然大評判!

特許中山式カイソネーチャ療法の威力!!

偉大なる科學の力は良く萬病を快癒す

●カイソネーチャ療法は吾が國初めての公開にて即ち機械内部に備ふる海草の含有薬分を蒸熱の作用で發散せしめ之れを全身の皮膚より各患部に浸透せしむる極めて合理的のものであります

●カイソネーチャ療法は 神経痛、リウマチス、關節炎、其の他の諸疼痛を初め中風、喘息、脊髄、痔疾、蓄膿症、胃腸病、婦人病、花柳病、皮膚病、其他凡ゆる病症に卓効があります殊に不感症並に精力増進に特効あり

●カイソネーチャ療法は 効力に就ては東京の本院は勿論當分院に於ても毎日多数の患者に實驗して實に驚へて居ります殊に不治の病と稱する幾多の難病者が不思議にも全治し何れも涙を以て感謝して居ります

●カイソネーチャ療法には副作用がありませんから絶対安全です兎に角醫師や藥で効なく常に人世に悩めるお方は一日も早く本療法の神秘的偉効により其苦惱を一掃し回春の喜びを得られんことを望みます

●機械増設 是迄は機械が一臺の爲め多数患者の方に不便をかけて居りましたが今更に一臺を増設致しましたから永くお待ちなされる様なこともなく何時でも治療が出来ます

特許中山式 **カイソネーチャ磐城分院**

吉田 五平 平町大町六番地 電話三七七番

夏の暑さより美味 尖端の夏の調理に

豚の味噌つけ

家庭の膳部とお土産品として 薬的によりよい

平町 電話三二三番 三三三番

平四丁目 (郵便局前通り)
熱田齒科醫院
院長 熱田 留

内科、小兒科、市原卯太郎
外科、一般、婦人科、市原陸郎
外科、梅毒、淋疾、市原三三男
皮膚、皮膚病、市原三三男
平町田町本通り

市原醫院
(入院隨時) 電話二一四番

拜啓 新緑の候益々御清程御消光の段奉慶賀候弊館年來の御厚情御引立を蒙り御蔭を以て無事營業仕り居り難有深謝仕り候却説從來の不完全なる道路は御來客様に多大なる御迷惑を相掛け全く申譯之無く存じ居り候處今回高野村迄貸切自動車として開通仕る事に相成り候間弊館迄の道路も改良を計り此程一段落を遂げ弊館迄貸切自動車にて御來光を願上られ御來客様從來の不便も先一掃仕り候間年來の御愛顧を以て御來車の程御誘引申上げ度く先は御通知致し御懇願申上候 拜具

石城郡箕輪村高野
高野礦泉入の元湯
(痔、胃腸、神経痛)
高萩 コーソウ

鑛城炭礦株式会社
鐵道省枕木御用達
材木商三佐藤三平
福島縣石城郡内郷村大字小島字新町
平 電話四三〇番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
平・五 電話九番九九番

郡内廿四ヶ町村の囑託により
輕費診療をなすつゝあります

診療科目 内科、小兒科、外科、性病、科皮膚科、産婦人科、物理療科、耳鼻喉科、X光線療科

診察科 共濟會員 無料
診察科 共濟會員 五十錢
診察科 共濟會員 十五錢
入院料 一日 輕費診療 一圓以上

院長 醫學博士 石山 謙郎
本院主 幹 賀澤 忠一治

衛生試驗 醫學的検査は何でも致します遠慮なく御利用下さい
公休日 是廢しました

尚御不明ノ點ハ各町村長並ニ本院ニテ御遠慮ナク御聴キ下サイ

平町共濟會
電話四六一番

滋養豊富で
美味は百パーセント
久保田のパンを
ご最負ください
平十五丁目(廿三夜會堂前)

久保田パンヤ
電話三八三番
小賣店 (三町目四十番地) 常磐銀行支店側

平町田町 電話五二三番
高久病院
醫學士 高久 羽久
新湯醫學士 赤羽 菊
藥劑師 佐竹 清忠
内科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

平町田町 電話三二三番
三三三